

## 9月～10月のりた (告知)

- 時 開催時間 対 参加対象  
 所 開催場所 申 参加方法  
 ￥ 参加費 持 持ち物  
 定 定員(選定方法)

### 9/13 日 むらさきかんまつり2020 ～東部のイロドリ イロトリドリ～

東部地域やむらさきかんを利用する個人・団体の成果発表の場。写真、絵画、造形作品など東部地域の魅力を発信する展示会を開催します。※新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、例年とは形態を変えて実施します。

- 時 10:00～15:00  
 所 むらさきかん  
 ￥ 無料  
 申 直接むらさきかんへお越しください。

### 9/29 10/18 第5回 みんなのむつみ展

地域の魅力を再発見する機会として、みなさんから六ツ美をテーマにした写真、絵ハガキ、陶芸などの作品を持ち寄っていただき、みんなで作品展をつくります。

- 時 9:00～21:00(休館日を除く)  
 所 悠紀の里 ギャラリー  
 ￥ 無料  
 申 直接悠紀の里へお越しください。

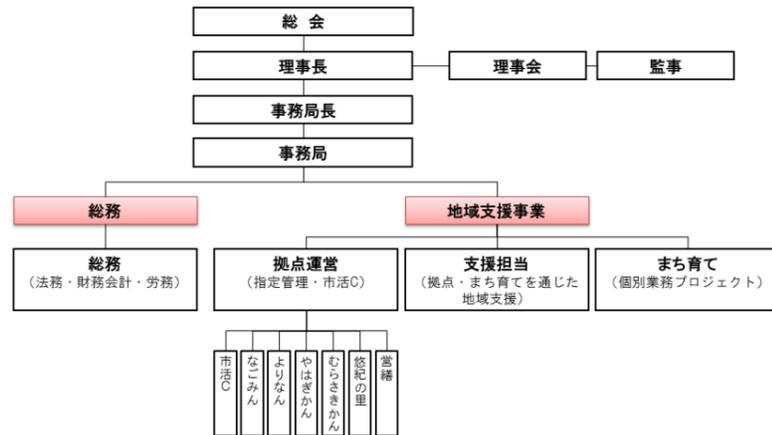
※作品募集は9/19まで(全展示スペースが埋まり次第、募集は終了)



お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114	
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

## 組織体制について

事務局(総務・事業管理)および地域支援の強化を図るため、組織体制を下記の通り変更しました。より一層地域支援に注力して参りますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い致します。



## 役員選任について

2020年6月29日(月)に第15回通常総会および理事会を行い、新体制が発足しました。

役職	氏名	所属団体	備考
理事長	築瀬 鈴憲	岡崎まち育てセンター・りた	再任
副理事	神尾 明幸	岡崎市総代会連絡協議会	再任
副理事	石川 優	社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会	再任
理事	蜂須賀 博英	岡崎市ボランティア連絡協議会	再任
理事	長坂 宏	岡崎市学区福祉委員会連絡協議会	新任
理事	天野 吉伸	あいち三河農業協同組合	再任
理事	原田 真典	岡崎青年会議所	新任
理事	山田 美代子	りぶらサポータークラブ	再任
理事	大久保 貴子	岡崎まち育てセンター・りた	新任
監事	松葉 哲也	税理士	再任
監事	松村 修平	弁護士	再任

下記4名の理事は任期満了のため、退任致しました。

- 辻村信治(岡崎市学区社会教育委員長連絡協議会)、深谷竜太(岡崎青年会議所)
- 入江紀夫(岡崎市学区福祉委員会連絡協議会)、荻野厚夫(岡崎市PTA連絡協議会)



額田総合相談窓口(ふくまど)、スクエアガーデン地域包括支援センター、基幹型地域包括支援センター、長寿課、りたとの初顔合わせ(2019年4月)

## 特集 高齢化課題に直面する地域との連携を図る『包括』への広報支援

市内に20か所設置されている地域包括支援センター(以下、『包括』)を支援するため、平成30年度に始まった「地域包括ケア支援事業」。まちづくりの視点で高齢化の課題に取り組むりたにとって、高齢者をケアする『包括』への支援は重要な仕事となっています。現在『包括』は、「医療、介護、介護予防、生活支援、住まい」を一体的に確保し、地域、行政、関連機関が連携して高齢化の課題に取り組む「地域包括ケアシステム」の構築に力を注いでおり、それには地域との連携(地域づくり)が欠かせません。そこで当初は『包括』が地域と話し合

う場を活発にするため、ファシリテーション技術などで会議運営を支援しました。その中で地域づくりへの理解促進の必要性を共有し、平成31年度からはコミュニケーションの手段としてりたが重要視している広報の支援を開始しました。当時の『包括』の中には、「一生懸命やっているのに効果が出ている気がしない」といった意識を持つ職員の姿もありました。それが、この支援を経てスキルが高まったほか、「広報活動は自分たちの仕事を円滑にする」と自信を深めた『包括』もあらわれました。今回は、こうした広報支援の全容をご紹介します。

# 高齢化課題に直面する地域との連携を図る『包括』への広報支援

## ●実状に合わせた支援

平成31年度は、額田地域包括支援センター・社会福祉協議会・健康増進課からなる「額田福祉総合相談窓口(ふくまど)」と、羽根学区・城南学区を担っている「スクエアガーデン地域包括支援センター」への広報支援を行いました。どちらの組織も地域づくりのために効果的な情報発信をしたいという意欲を高く持ち、広報誌(季刊)や案内チラシなどを作成していました。それらの広報物には十分な情報が盛り込まれていましたが、反面、情報が多くて焦点を絞りきれなかったり、広報誌が毎回同ような内容になったりするなど、効果的ではない部分がありました。

ヒアリングをすると、正解のわからない編集作業への不安や、熱意を反映しきれないもどかしさのようなものが感じられ、りた担当者もその気持ちに応えるべく支援に取り組みました。広報においての、何が正解かは、その方針により異なりますが、現場の職員が手がける広報は「自分たちの仕事を円滑にすること」を目指し、仕事に関わる人(ステークホルダー)との関係を築くことが最善と考えました。

そこでまずは、相談、個別支援、権利保護、地域づくりなどの多岐にわたる業務と、その先に存在するステークホルダーを整理して見える化。そこから「やりたいこと、できること、すべきこと」を考えて広報方針や媒体企画を作成。そして他の業務とのバランスや効率を考えながら作業工程を組み立てていきました。



←常にアイデアを出して話し合うスクエアガーデン地域包括支援センターの広報会議。和気あいあいとしたチームの雰囲気は紙面にも反映されていました



→3つの組織が1つの広報物を作成する難しさもあった額田福祉総合窓口。広報会議をカンファレンスの前後に開催するなど効果的に進んでいました



↑広報誌へ掲載するため民生委員を取材。こうしたコミュニケーションが取れることも広報の利点



↑りた担当者が見学した、ごまんぞく体操。高齢者の運動や交流の場のサポートも包括の仕事

## ■行程とスケジュール

1期(4~6月)	2期(7~9月)	3期(10~12月)	4期(10~12月)
<b>■ 広報誌など</b> <b>調査・分析</b> ※ヒアリング、掲載情報の精査など、組織の仕事や広報の方向性などの把握と確認	<b>広報企画作成</b> ※広報方針作成 ※各媒体の企画作成 ※誌面構成(ひな形)の作成	<b>作業工程の実践</b> ※広報会議→素材収集(取材)→原稿作成→レイアウト→校正(修正)→発行→評価までの作業の実践する	<b>作業工程の改善運用</b> ※3期で実践したルーティンの改善を行い、通常業務に即した運用をする
<b>■ 単発チラシなど</b> <b>既存の手順で完成させた広報物に対し、校正段階で見せ方や内容についての確認とアドバイス</b> ※この広報物で喚起したい行動は何か(目的)を確認しながら校正。目的に応じて修正内容が変わることを経験してもらい、次回の目的設定の参考にする			

## ●広報支援の3つの柱

広報活動をする場合に、情報の受け手からすると「どんな立場の人からの、何を目的にした情報発信か？」が気になるものです。それは情報の価値基準となるものであり、それを明確にすることで広報の信頼度も高まります。そこで『①広報についての認識共有』で「どんな立場の人」を明確にし、『②目的の設定と合意形成』で「何を目的にした情報発信」かを決め、『③情報発信の技法の習得』で「発信者目線の情報を受信者用に変換」という、3つの柱を実践しました。

### ① 広報についての認識共有

広報(PR=パブリック・リレーション)は、発信者が受信者との関係を築くための接点や手段であるということへの認識を共有。組織として発信すべき情報(読み手に知ってほしいこと=仕事を円滑にする情報)を検討し、広報物を受けとる人たちと築きたい関係の理想も描きながら認識を深めました。

- 取り組んだこと
- ・業務内容の見える化
- ・ステークホルダーの見える化
- ・ネタ帳の作成
- ・掲載情報一覧(予定&実績)
- ・年間スケジュールの作成

### ② 目的の設定と合意形成

大人数で1つの仕事を成し遂げるには目的の設定が必要です。しかし記事やチラシなどは、作成目的を内部で確認せずに担当者が一人で作り、関係者が校正する際に認識の不一致が露呈し、不本意な修正が発生することがあります。この工程を取り入れることで、作業の無駄を省いてクオリティアップを図りました。

- 取り組んだこと
- ・定期的な広報会議の開催
- ※認識共有や進捗管理
- ※記事、チラシの作成前確認
- ・会議項目&議事録の作成

### ③ 情報発信の技法の習得

組織の書類で使用するような専門の言葉を、受け取りやすい言葉へ変換するなど、読み手の気持ちになって考えることを実践しました。キャッチ、リード、ボディの仕組みや、論理構築をスムーズにするプロットの設定など、情報発信のセオリーを取り入れながら読み手の興味を引くための工夫を凝らしました。

- 取り組んだこと
- ・推奨記事プロット作成
- ・掲載情報整理シート作成
- ・企画整理シート作成
- ・取材(地域資源)シート作成

## 「広報支援を受けて」 ※広報支援への感想をいただきました

### 額田福祉総合相談窓口(ふくまど)

編集や情報発信の具体的な技術も教えていただいたことはもちろんですが、改めて自分たちの業務や広報の必要性などを考えるところから整理し、具体的には「見える化」「システム化」「職員間での話し合いと共有」の3点を実践し、広報紙の完成度も上がりました。広報紙作成の手法や効率化を学べたことにとどまらず、どの業務についても、改めてその3点の作業がとても効果的で大切な事だということも学ぶことができた1年でした。

### スクエアガーデン地域包括支援センター

広報は「業務を円滑に行うためのもの」だと学びました。例えば広報紙の取材では、地域とのコミュニケーションを図るだけでなく「高齢者見守り支援事業所」を増やすためのツールとして活用できました。また記事を読んでくれた住民が「認知症高齢者見守りネットワーク」の利用に向けて動くなど、行動喚起にもつながりました。「広報はラブレター」。読み手を思いやる気持ち、伝えたい意思を持つことは対面での支援と同じだと感じました。

## 「包括ゼミ」で課題や成果を共有

包括への支援の学びを全体で共有しようと、りたが提案した「包括ゼミ」。包括の担当地区にはそれぞれに特徴があり、抱える課題もさまざま。しかし異なる状況でも通じる要素はたくさんあり、課題や成果の共有が活動のヒントになればと開催(平成30年度は約月1回)しています。包括、基幹型地域包括支援センター、長寿課、りたによって運営され、横のつながりを生かして業務を推進しようという意欲的な取り組みです。また議事録を兼ねたニュースレターはネット配信もされています。



### 包括ゼミ(広報支援報告)の参加者の声

- ・広報業務が仕事と結びついていることがわかり、目的、対象、内容などを整理できることがわかった。
- ・伝えたいことを詰め込みすぎでいたので、伝えたいことを受け手に正しく伝えられるように試してみたい。
- ・苦手な広報についてとても勉強になりました。
- ・シートに記載するのは大変だと思いましたが、目的が変わってしまうことを防げるのは良いと思いました。
- ・担当者任せになってしまっているのは課題だったので、チームで取り組んでいきたいと思う。